

わが町のアンケート調査等でも、企業誘致を望む声は非常に多く聞かれます。

こうした見地から、一部の方には大変にご迷惑をおかけしますが、工業団地は町づくりの上から欠くことのできない重要施策ですので、町政15年の悲願として、何としてもこれを成し遂げたいわけです。

また、先に再選を果たした沼田県政の目玉とする『新三角構想』の中でも、当地は空港周辺という優位性から、先端技術産業導入が可能な内陸工業団地の

適地とされていきますので、その受け入れも急がなくてはなりません。

複合開発の 利点は

このように工業団地は、新時代に向けての豊かな町づくりに向けたことのできない重要施策と言えますが、現実には用地がまとめ切れないという難題を抱え、県も町も大変に苦慮してきました。

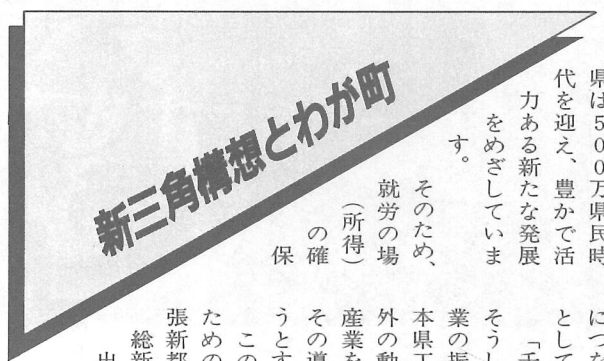
こうした折に、民間企業（東京グリーン）から持ちかけられたのが、今回のゴルフ場との複合開発です。

この計画は、虫喰い状態にある工業団地を一箇所にまとめて（交換）、その周辺に工場誘致にも有利なゴルフ場をつくり、緑に囲まれた近代的な工業団地を実現させようというものです。

この計画による利点は、工業団地では散在していた用地がまとまり、しかも従来の起伏の多い場所から、効率のよい場所へと位置が変わりますので、土地

県は500万県民時代を迎え、豊かで活力ある新たな発展をめざしています。

そのため、就労の場の確保（所得）の確



つながる産業の振興を図ろうとしています。

「千葉新産業三角構想」は、そうした産業政策の一つで、工業の振興に重点をおくものです。本県工業の歴史を踏まえ、国内外の動向を勘案して、先端技術産業を本県飛躍のカギとして、その導入を積極的に図っていくとするものです。

この先端技術産業を導入するための人材を養う場としての幕張新都心、研究開発のための上総新研究開発都市、製品の輸出入のための国際物流機能を備えた成田国際空港都市の三構想を放射状・環状の幹線道路で有

機的に結びつけていこうとするところから、この名称がつけられています。

県では、さらにこの構想をより具体化するため、県工業立地振興ビジョン」を策定し、新しい工業導入への目標を示していますが、昭和75年（21世紀）までには、県内の工業敷地面積を現在の倍以上にしたい考えです。

また県では、これらの構想の中で、成田空港周辺の10キロ圏域を「臨空工業ゾーン」(先端技術の丘)として指定し、技術立県千葉のメッカとしたい意向です。わが町も、その圏域に近いところから、十分に期待が持たれるわけです。

利用上極めて有効な活用が図れるということですが。

また、ゴルフ場は元来起伏のある場所が適地とされていますので、工業団地としては不適当だった土地も生きますし、樹木も必要ですので、買収上ネックとなっていた優良山林をうまく利用することも可能です。

開発業者との かかわり

このように複合開発が進めば、従来の問題も解消され、工業団地の実現性が出てくるわけですが、心配事がないわけでもありません。

企業の力量や用地取得の可能性などが心配されますが、芝山町での実績、開発への同意件数、地権者の意向、一流企業である伊藤忠、熊谷組の全面的なバックアップ等から、県や町では慎重審議の結果、交換方式による複合開発を認めることになりました。

この開発による業者と県・町とのかわりについては、用地の取得から交換までを民間企業が行い、その後の工業団地造成や分譲については、従来どおり県と町が行うことになっていきます。

今後の 見通し

工業団地やゴルフ場等の大規模な開発については、さまざまな規制や基準がありますので、まずその協議手続きに入ります。農用地の取扱い、埋蔵文化財、排水の処理問題等々、厳しい条件の一つ一つ適格な対応措置をとる必要があります。

こうした手続きが進み、許認可の見通しが立ちまると、用地の取得に入ることが許されませんので、工業団地の完成までには用地がスムーズに取得できたとしても、あと数年はかかる見通しです。

いずれにしても、この計画の実現のためには、ゴルフ場を含めて大勢の方々の用地提供が前提となりますが、開発問題は一つにも二にも地権者のご協力が絶対の条件となりますので、皆様の絶大なるご理解とご協力を切望いたします。【問い合わせは企画空港対策課へ】

